まえがき

平成29年（2017年）8月に国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関する有識者会議報告書が示されました。国立大学に設置される附属学校園の設置目的は，「附属する国立大学，学部における児童，生徒，幼児の教育又は保育に関する研究に協力し，当該国立大学，学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たる。」ですが，有識者会議では，附属学校の存在・役割の明確化が課題であるとされました。具体的には，地域のニーズに対応した教員養成・研修の拠点としての機能を高めるとともに，地域のモデル校としての役割が期待されています。

本校では，大学と共同で先進的な教育課題に取り組み，実践を重ねるとともに，将来教員を目指す学生の指導を行ってまいりました。同時に，授業公開や研究発表協議会等を通じて，本校の研究や実践を広く地域に示し，地域のモデル校としての役割を果たす努力をしております。特に，昭和58年（1983年）度に始まった調査研究型総合学習は，30年以上の実践のなかで検証と改革を繰り返し，現在は「BIWAKO TIME」として生徒の論理的・創造的な思考力の向上を目指す探究的学習の幹として位置付けております。この他にも，本校では独自に「情報の時間」，「COMMUNICATION TIME」，合科学習「科学技術の時間」を開設しております。平成29年（2017年）度からの3年間は，公益財団法人日本科学技術振興財団から「エネルギー教育モデル校」に指定され，合科学習「科学技術の時間」のモデル化も進めてまいります。

このような教育実践および研究の成果は，生徒の思考力や判断力，表現力の育成だけでなく，本校に勤務する教員の資質・能力の向上をも促すことが，本年度実施した「滋賀大学教育学部附属中学校教員経験者に対する意識調査」で明らかになりました。さらに，校内研修で行う授業研究会への公立学校教員等の参加を受け入れ，有識者会議報告書でも求められています教職生活全体を見据えた教員研修学校としての任務を務めております。一方，本年度は，本校での研究成果が教育委員会や他の学校でどの程度活用されているかを明らかにすることを目的として，本校で開催した研究発表協議会等にご参加いただいた方々を対象にした調査も実施いたしました。調査でいただいた本校への評価やご意見は，今後の教育や研究に活かしていくことにしております。

本年度は，BIWAKO TIME と各学年での探究課題の取り組みとを幹とし，「課題の設定→情報収集→整理と分析→発表と交流→まとめ→新たな課題」というプロセスを意識した探究的学習活動を各教科でも横断的に取り入れ，学びを深めることに取り組みました。また，思考ツールの活用や授業における意見の交流，表現等を重視し，教員間で学習ルールを共有しました。そして，問題解決に向けた視点や方策を導く効果的な学習による生徒の論理的･創造的な思考力の向上をめざしました。

ここに本年度の本校の研究の成果を広く公表して皆様からのご批評を仰ぎ，今後の教育研究に活かし，発展させていくことができるよう努めてまいりたいと考えております。また，本校の教育研究が我が国の学校教育に貢献できますよう，今後も努力してまいりたいと思います。どうぞ多くの皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願い申しあげます。

平成30年（2018年）3月

滋賀大学教育学部附属中学校 校長　久保加織